

をあげた元木として今に残っております。私の家のチャボヒバは言い伝えによると天保年間の初期(180年前)に生産第1号の挿木苗として植えた物と聞いております。

新保の諏訪神社のサイカチの木は年寄りの人に聞くと昔はサイカチ講があって皆さんで集まって酒を飲んだものだったと言ってくれました。昔はレクリエーションの無い時代の楽しみの一つであったようです。

珍しい木は須戸新田の樋口俊文さんのキハダです。幹周り2.1mの幹を持った木は特に珍しく神に守られていました。キハダは昔から漢方薬としてよく木の皮を乾燥してお腹の薬として、苦いのを我慢して飲んだ物だそうです。胃によく効くと聞いています。

皆さん植物は一番まじめで人間に話しかけてきます。それは葉の色つやで虫がついたり、病気になったりするとすぐに幹や葉が変化しますので手当をすれば植物はいそいそと伸びます。隣の樹木を邪魔にしないで借景として眺めてください。

会員の声: 「夢・挑戦・感動!!」 梨木 建夫

21世紀に入って激動の年、変革の年、改革の年などといわれて久しいのですが、私自身はからずもこの1年間で「中国」「アメリカ」と立て続けに、世界の二大国を旅する機会を得ました。さすがに超大国であるこの目で見てきたのですが、パワー溢れるエネルギーは凄まじいものが両国にはありました。中国の躍進は10年1昔どころか1年1年の変わり様がすごく目を離せない状況にあるということです。又アメリカは「ニューヨークのテロ事件」に表されるように、いつまでも悲しみにだけ浸っているのではなく常に前進するのだという意気込みがヒシヒシと伝わってまいりました。具体例をあげればきりがありませんが抽象的に言葉に表した時に「夢・挑戦・感動!!」の文字が鮮明に浮かんできました。両大国には夢があります。夢を現実のモノとする為にあらゆる挑戦をし続けているのだなあという実感が両国から感じられました。

私自身これから1年間三条北ロータリークラブの舵取りを仰せつかったのですが、まだまだ不安で一杯ですが、しかしここに及んでジタバタしてもしようがありません。腹をくくって「挑戦」の二文字にチャレンジします。そして「夢」を現実のモノとし最後に「感動」を深く味わってみたいものです。それには北クラブ全員の皆様のご協力を頂くしかありません。どうぞよろしくお願い致します。

4月の祝い:

誕生日		結婚記念日	
会 員		夫 人	
長谷川博一	1	早川 町子	1
梨木 建夫	2	柄沢 佑子	1
今井 克義	10	安田 夏江	5
白倉 昌夫	17	高橋 淳子	30
堀川 正幸	21		
米山 忠俊	22		

4月2日例会: 外部卓話

4月8日例会: (月) 例会日変更 「ロータリー雑誌月間」3RC合同講演会
会場VIP 午後6時50分~(18:15~食事)

4月16日例会: 卓話 小島茂男会員

4月23日例会: 卓話「泌尿器科の成人病」平岩医院院長 平岩三雄様

4月30日例会: 夜例会 三条ロイヤルホテル 点鐘午後7時



三条北ロータリークラブ週報

人類が 私たちの仕事

例 会 日
2002. 3. 26
累 計 No 746
当 年 No 37

国際ロータリー会長 リチャードD. キング 第2560地区ガバナー 野沢謹五

ホームページ <http://www2.next.ne.jp/2560nzwa>

会 長/木 宮 隆

幹 事/山 中 正

SAA/長谷川 恵慈

例会日/火曜日 12:30~13:30

例会場/三条ロイヤルホテル

事務局/三条市西四日町3-15-34

☎34-8111 FAX34-8114

ヒューマン・ハーバー内

☎35-7160 FAX33-8972

メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行 事: 夜例会 午後7時点鐘 於三条ロイヤルホテル

卓話「三条市に残る巨木調査」齋藤興一会員

出 席: 本日の出席 58名中 43名(内記帳11名)

先々週の出席率 58名中 42名 72.46%(前年同期89.29%)

先週のメークアップ: 3月20日 三条RCへ 山上茂夫さん

25日 三条南RCへ 笹原壮玄さん

26日 田上RCへ 石川勝行さん

ビ ジ タ ー: 三木RCより 片山真人さん

三条RCより(敬称略)石橋育於、松谷晃吉、丸山行彦、五十嵐晋三、渡辺喜彦

渋谷正一、樺山 仁、五十嵐総一

三条南RCより(敬称略)嘉瀬 修、弥久保藤雄、佐々木常行、大久保秀男

天田 匡、荏澤喜一郎、田代徳太郎、吉田秀治

池田 稔、平松修之、野崎正明、馬場茂夫、大原義弘

会 長 挨 拶: 木宮 隆



「出る杭は打たれる」・・・宗男疑惑の追及で一躍勇名を馳せた辻元議員も、一皮むけば、同じ穴の貉だった事が週刊誌の暴露記事で露呈した。

以前、白川勝彦代議士が公明党との連立をもくろむ自民党執行部の方針に反旗を翻し、平沢勝栄氏らと謀り、造反した時のことを思い出す。あの時も確か選挙前の微妙な時期に、白川氏の秘書の不正が暴露され、結果的に、彼は落選の憂き目に遭うのである。このタイミングのよさは一体何なのか。裏で誰かが動いているのは間違いない。

考えてみれば、政治家や政党はお互いに、相手の公にできない秘密を知っていて、それを過度の

追求に対する保身の抑止力として、巧みに使っているのではないのか。お互い、脛に傷もつ者同士の生き残りの知恵とっていい。この様な腹芸、裏取引が平気でまかり通る、永田町に国政を云々する資格がそもそもあるのだろうか。

物事には裏があるとよく言われる。この裏の意味、隠された真意を洞察するセンスが要求されるのが政治やビジネスの世界だと言えば、何やら穿った解釈に聞こえる昨今である。

「裏を読む」などと言うと、とかく人が悪い様な印象を受けたのは昔の話。世の中、人の言葉や情報を鵜呑みにしている様では、お人好しと揶揄されてもしょうがない。むしろ、逆転の発想で、裏の裏を読む機転が要求されていると言う事だ。

辻元議員にくだんのテクニックを指南した人物を追及することも大切だが、彼女を議員辞職に追い込んだ暴露ネタの出どころも同時に追求する事が、政界の闇の部分にメスを入れることになる。追い詰められた議員がその腹いせに、洗いざらいを暴露する、こんなかたちでしか真実の解明ができないのであれば、この際、辻元氏は勿論、鈴木、加藤ご兩人にもご協力願って、闇の解明に一步踏み込むべきだ。「毒をもって毒を制す」・・・腐りきった政界を浄化する方法はこれしかないと思う。

幹事報告： 山中幹事

・ロータリー米山記念奨学会より 「米山奨学会ご紹介」チラシ配布のお願い

お席に配布してありますのでお読み頂き、一層のご協力をお願いします。

ニコニコボックス：	26日現在累計 849,000円
-----------	------------------

大野新吉君 春たけなわ、待ちに待ったシーズン到来。作業着姿で毎日、庭、池の手入れ、こんな楽しい仕事だれにもさせられません。斉藤さんの卓話楽しみにしております。

阿部勝子君 斉藤さん今日の卓話頑張ってください。

小林満君 BOXに協力です。

安田貞夫君 BOXに協力。

小林繁男君 BOXに協力。

小林幹扶君 ボックスに協力

坂爪茂雄君 ボックス協力。

駒形実君 BOXに協力。

卓 話： 「三条市に残る巨木調査」 齋藤興一会員



日本では昔から、樹高の高い木や太い木を巨樹とか巨木、大樹、大木と呼んでいました。その巨木には昔から伝説や、エピソードなどの物語がありましたが、巨木についての明確な定義はなかった。しかし1988年（昭和63年）に環境庁で全国の巨樹・巨木調査を行うに当たって統一した基準を定めたため、現在ではこれが一般的になっています。

◎巨木の定義

1. 地上約130cmの位置で幹周りが3 m以上の木
2. 地上130cmの位置において幹が複雑に分かれている場合には、それぞれの幹周りが300cm以上あり、主幹の幹周りが200cm以上のもの。

と環境庁は調査しておりました。私達の調べた巨木調査写真集を市長さんに提出しましたところ、市長さんは大変喜んでくれました。その後県から国・県の指定を受けていた樹木以外の樹木の調査依頼が三条市にあり、三条市では巨木調査写真を元に樹木にまつわる伝説やエピソードなどを調査して、回遊バスのコースに近い樹木から名札をつけて市民に紹介するそうです。市の生活環境課では県に提出するのに巨木調査が大変活用できたと喜んでいました。

調査の結果、三条市には江戸時代からの巨木は平地には殆どありませんでした。又巨木調査の定義もありませんので、私達の会（三条文化財研究調査会）で調査条件を定め調査しました。その理由として一般住宅にある木は、巨木でも切り倒される恐れがあります。又果樹地帯では100年間食べってきた梨の木、廿世紀や長十郎などの木は切られて今の新しい品種に植え替えられていました。長十郎は1本も無く廿世紀は当時の物が3本しかありませんでした。その木も切られる運命です。ル・レクチェ（洋梨）は今は花形の品種なので明治中期の物が残っていました。案内役の猪熊正法君も驚いていました。調査の条件としてはやや緩和してより多くの巨木が対照となるようにしました。

1. 幹周2 m以上、2. 年数150年以上、3. 歴史的、産業的な巨樹と三段階に分け調査は13年5月より調査を開始しました。調査をしてみると杉・ケヤキの木が多いので4～6本を測定しました。会員の大橋彰夫君と廻りましたが写真に納めると葉の色が同じく見えた為、写真は秋の紅葉が始まるのを待って調査写真に納めました。廻ってみると神社仏閣にある樹木が多く見られ一般の家には殆ど無く、あっても信仰の対象として、神や仏を祀り、その側に樹木を植え込んであるのがよく見られました。一番樹木が倒れたり、切られたりしたのは第二室戸台風でした。殆どの巨木が倒れました。中には銘木や伝説のある樹木も倒れてしまいました。又歴史的な樹木で維新戦争のおり西大崎から諏訪新田にかけて鉄砲の鉛の弾がめり込んでいた樹木なども、新しく移り住んできた住人が落ち葉が邪魔になるといわれて、やむなく伐採された樹木もありました。残念に思ったのは県の指定を受けた西明寺様のモミジでした。指定を受けたときは南東側は杉の木の本立でモミジを太陽の光線から守っていたが、今回見ましたら杉の本立は伐採されていました。モミジの皮がはじけて瀕死の重体です。その理由はモミジの皮は薄くて太陽の光に弱く皮が火傷したのが原因と思われる。若木の時から太陽に照らされているモミジは大木になっても皮は焼けることはありません。それから日本の北限と言われている、タブの木が八幡宮の社務所の庭にありました。タブの木は海岸の方に多く自生して巨木も見られますが山手には大木は殆ど少なく大きくなると寒さの為に枯れてしまうのが普通です。我が国も明治に入ると外国より街路樹としてさまざまな樹木が入ってきました。その中の種類でヒマラヤシダ、プラタナス、ポプラなどの木が八幡宮や八幡公園に当時植えられた木が残っていました。三条市で一番の巨木は本成寺様の西側にあるケヤキです。幹周り5.6 mで樹齢は数百年数えると思われます。杉の木は上保内、小布勢神社の杉で幹周り4.53 mで木の内側が、がらになっていて昔子供の火遊びで空洞の部分の木の腐れが焼け、それが消毒となり杉の木が元気で育っていました。樹齢は古く室町時代の物と推定できます。屋久島に旅行したとき、屋久杉と秋田杉の年輪の違いが展示してありました。その秋田杉の年輪は400年物でしたが小布勢神社の杉の木はその杉より大きいので室町時代である事が推定できます。

上保内円光寺のモミの木と柳沢の諏訪宮の杉の木は左右均等に植えてあり当時の門柱代わりに植えられた物と考えられます。市の木五葉松は井戸場の山田久太郎様の庭にありました。幹周りが1.7 mしかないが枝の剪定を昔からやってあるので幹周りは太らないが幹肌が荒々しくなっていました。数少ない江戸時代の木と考えられます。

私の家に残るチャボヒバと下保内荒井勇さんに残る柃は挿し木の親木として保内の植木の生産力